

# ATEM Newsletter

## Mar. 2011 No.20

発行日 :2011年3月吉日  
 発行 :映画英語教育学会事務局  
 住所 :〒169-0075  
 東京都新宿区高田馬場  
 4-3-12アルク高田馬場4F  
 TEL :03-3365-0182  
 FAX :03-3360-6364  
 E-mail :office@atem.org  
 郵便振替 :00820-3-1477

**ATEM** 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## 映画英語の更なる ポテンシャルを追って

会長 磐崎 弘貞(筑波大学)  
 Hirosada IWASAKI

私個人の英語学習における英語映画遍歴を思い起こすことがよくある。1970年から80年代初頭において、英語の音声は貴重であり、英語画像はなおさらそうであった。ちょうど、二ヶ国語放送が開始されたが、ビデオレコーダーなどは個人所有できず、やっと、TVの二ヶ国語放送を受信できるカセットプレーヤを入手し、副音声を録音していた(多重音声のTVは高嶺の花だった)。アメリカ大統領選のディベートなども、関心はあっても映像は入手できず、市販のオーディオテープ版(確か4千円前後)を購入し、テープが伸びるまで聞いたものだった。

その後、個人でもVHSレコーダーが所有できるようになると、映画やTVドラマを録画し、その音声だけをテープに取り直して聞くようになる。実際、私自身の英語力を鍛えてくれたのは『大草原の小さな家』(*Little House on the Prairie*)、『ファミリー・タイズ』(*Family Ties*)、『アーノルド坊やは人気者』(*Different Strokes*)、『コズビー・ショー』(*Cosby Show*)、『刑事コロンボ』(*Columbo*)といったTVドラマであった。こうしたドラマは、どのエピソードも教材として当たりはずれがなく、どれも20回以上は聞いただけだろう。『ファミリー・タイズ』や『コズビー・ショー』といったホームコメディは、同じエピソードを何度聞いても笑えた。そのため、就職してからも、クルマ通勤で聞いていたエピソードを到着しても止められず、よく駐車場でしばらく笑いながら聞き続けた。そのため、それを目撃した学生から、とめたクルマでひとり笑っている、怪しい教師がいると思われていたことを後に知った。

こうしたTVドラマが、ここ数年、相次いでDVD化さ

## 16回 映画英語教育学会



れたのは嬉しいことである。さっそく、授業で『ファミリー・タイズ』のDVDを使ってみると、面白いことに気付く。取り扱われる「恋愛、アルバイト、家族の絆、出産、非行」といったテーマは、製作から20年以上たった今も、全く色あせていない。学生は昔の私と同じシーンで笑い、感動する。一部の学生に、これは20年以上の前の作品であることを告げると一様に驚く。携帯電話やインターネットが出てこない点を指摘すると、「ああ、そう言えば」と気付く程度である。

昔は、こうした作品を教材として使う際には、自分でディクテーションして、ワークシートを作った。現在は、DVDで英語字幕も出る。シナリオ本が出ていることもある。ツールを使えば、テキストを抽出して、レベル付きの単語リストやセリフ表現集を作ることでもある。しかし、まだこの面白さと、活用のノウハウに不案内な教師の方も多い。だからこそ、ATEMの活動は続くのである。

最後に、初代ATEM会長・鈴木博先生が急逝された。立ち上げ時の困難な状況で精力的に舵取りをしていただき、大会開催・紀要刊行・HP公開を軌道に乗せていただいた。STEM学会との提携が開始されたのも先生のご尽力である。ここに哀悼の意を表したい。(11ページに訃報を掲載)

# 第16回 映画英語教育学会 全国大会 報告

全国大会 実行委員長  
塚越博史(北海道医療大学)  
——Hirofumi TSUKAGOSHI

第16回映画英語教育学会全国大会は2010年8月8日(日)北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにて開催され無事終了いたしました。

基調講演、研究発表、特別企画シンポジウムでは有益な内容のお話、そしてそれぞれ活発な質疑応答がありました。参加者の皆さんには有意義な時間を過ごしていただくことができたのではないかと考えております。

基調講演をしてくださった小林敏彦先生、研究発表いただいた各先生、シンポジストの皆さん、有難うございました。遠路、そしていつになく暑くて湿気たっぷりの中、足を運び会場を盛り上げ、そしてサポートして下さった参加者の皆さん、実行委員一同心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。そしてお疲れ様でした。

## 第16全国大会 実行委員会メンバー

実行委員長：塚越 博史(北海道医療大学)

実行委員：足利 俊彦(北海道医療大学)

今井 雅江(藤女子大学)

北間 砂織(北海道医療大学)

白鳥 亜弥子(北海道医療大学)

高杉 紀久江(旭川大学情報ビジネス専門学校)

松田 愛子(翻訳者)

三浦 寛子(北海道工業大学)

水島 梨紗(札幌学院大学)



## ■ 特別企画シンポジウム ■

### テーマ 動機付けを高める映画を活用した英語教科書

司会：佐藤弘明(専修大学)

Hiroaki SATO

ATEM全国大会では、毎回、大会テーマを決めますが、研究発表者が応募しやすいようにと、どの発表内容でも受け入れられるように幅広いテーマを選んできました。そのため、幅広い研究分野の発表を受け入れられる反面で、それぞれの研究発表に関連性が弱かったという問題がありました。関連する内容の発表をまとめて行うために、今回の大会ではシンポジウムを行いました。ATEM全国大会でシンポジウムを行うのは久しぶりです。ずいぶん前に「映画著作権」に関するシンポジウムを行ったことを記憶しています。

今回のシンポジウム「動機付けを高める映画を活用した英語教科書」では、映画を教材にした教科書の執筆者に、その教科書の魅力や使用方法を具体的に解説してもらいました。私自身は、大学英語授業でセリフを印刷したプリントを使用するため、市販の教科

書の内容を詳しく調べたことが無かったため、とても参考になりました。自作プリントの改良にも役立つ話が聞けて良かったです。次回の大会でも「映画を活用した指導一語彙・文法・音声」を計画していますので、ご期待ください。



## 1. 「ゴースト ニューヨークの幻」について

角山照彦(広島国際大学)

— Teruhiko KADOYAMA

センゲージ・ラーニングより出版しているオーラル系英語テキストとそれをベースにした授業実践について報告した。一般に、映画シナリオを扱ったテキストはリーディング中心で難易度も高くなる傾向にあるが、本発表では同テキストを使いながら4技能をバランスよく指導してゆくにはどうしたらよいか、英語に苦手意識を持つ学習者への対応をどうしたらよいかという点に焦点を当てて説明した。

まず、「ストーリーの流れに沿ってシナリオを扱いながら、シナリオの聞き取りだけに終わるのではなく体系的なコミュニケーション指導を行えないか」という開発理念から概念・機能シラバスを活用することに至った経緯から始め、次に、映画のシナリオを活用した会話演習の手順を紹介した。また、学生にストーリーの続きを創作して演じさせるスタイルの会話テストは実際の映像を交えて紹介した。

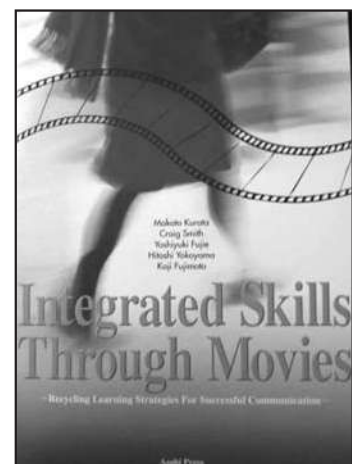
最後に、学生の授業アンケートの結果から本テキストが学生の動機づけにどのような効果があったかという点や教員の関心事である評価について触れた。

## 2. 「ブリジット・ジョーンズの日記」について

倉田 誠(京都外国語大学)  
Makoto KURATA

拙著『映画英語ワークショップ』Integrated Skills Through Movies (朝日出版社)のモチーフについて述べた。このテキストのモチーフを一言で表現すると、各章で扱われている映画の中で用いられている句動詞を数々の練習問題を通して、「漆塗り」をさせるというものである。第1章である「ブリジット・ジョーンズの日記」から選ばれた句動詞は、(1)bring up, (2) work out, (3) slow down, (4) go for, (5) end in, (6) run aroundである。この章では(1)～(6)の句動詞を、下記のような様々な練習問題で漆塗りさせている。

- (漆塗り練習問題1) 上記の6個の句動詞と学習映画辞典にある辞書的意味を連結させるという簡単な練習問題。
- (漆塗り練習問題2) 上記の句動詞を作為的に組み込んだ、当該映画のストーリーに関する500語程度のエッセイを読ませる練習問題。レメディアルテキストのものよりは、少し長めのものである。
- (漆塗り練習問題3) 句動詞とそのイメージイラストを結びつけ、その句動詞の中核的意味とつなげさせる練習問題。
- (漆塗り練習問題4) リスニングクローズ形式で、句動詞の他の意味を意識させ、多義性の存在を理解させる練習問題。
- (漆塗り練習問題5) 句動詞を学習英英辞典の定義を例文の中に組み込み、ネイティブが理解している意味を意識させる練習問題。
- (漆塗り練習問題6) 並べ替えの英作文をさせて、句動詞を使った文を実際に作らせる練習問題。
- (漆塗り練習問題7) CDを聴きながら、完成させた句動詞の文を和訳させる練習問題。
- (漆塗り練習問題8) CDを聴きながら、ダイアログを完成させ、ロールプレイを通して実際に句動詞を含む文を発話させてみる練習問題。



### 3. 「ペイ・フォワード」他について

井村 誠(大阪工業大学)  
Makoto IMURA

英語が苦手な学生に対応した教育が益々必要となってきた中で、大学英語教科書にも様々な工夫が求められている。本発表ではその試みの1つとして、学生に(1)興味を持たせ(Intriguing)、(2)やる気を起こさせ(Motivating)、(3)学習習慣を身につけさせる(Habit-forming)ことを目的として作成した映画英語教科書の概要について報告した。

『STEP UP WITH MOVIE ENGLISH』(金星堂2010)は、2本の映画を題材に、ストーリーを書き下ろしたReading Focus、シーンのセリフを中心としたScene Focus、学習方略を解説したLearning Strategyの3セクションからなり、以下4つの特色を備えている。

#### (1) 面白く、感動を与える映画が題材 → 学生の興味を惹く

映画の選択にあたっては、学生の興味を喚起するという観点と、教育的な配慮から、感動や勇気を与えるもの、人生や友情について考えさせるもの、学校生活に関係のあるものという3つの条件を設定し、これらを兼ね備えた映画として、*Pay It Forward*(2000年 Warner Bros.)と*Night Museum*(2006年 Twentieth Century Fox)を採用した。

#### (2) 学ぶ喜び(分かる・できる)を感じさせる説明とタスク → やる気を引き出す

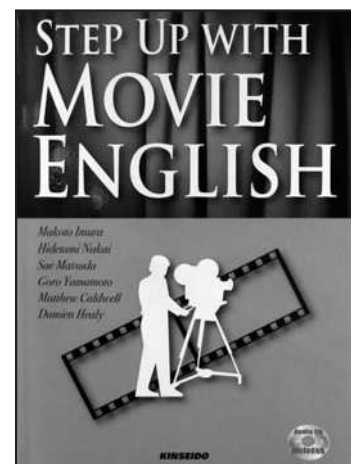
本教科書では、まず映画全体を観て、あらかじめストーリーを充分理解した上で学習することにより、「訳す」ことから離れて「英語に集中する」ことを主眼としている。読解活動ではフレーズ・リーディングによって英語の語順どおりに意味をつかんでいく練習を中心に「英語脳」の養成をこころがけ、コミュニケーション活動では、映画のシーンやスクリプトを利用した状況会話のロールプレイを中心に、定型表現を基にした自己表現へとつなげていけるよう工夫した。またコラムでは文化的な事象に触れて学生の興味を喚起し、語法・文法チップのコーナーでは、主に口語英語の用法について、できるだけ文法用語による規範的な解説を避け、学生の直感的な理解を促進するような説明をこころがけた。

#### (3) 学習方略が身に付くエクササイズ → 学習習慣を身につけさせる

各ユニットの最後にLearning Strategyのコーナーを設け、「語彙学習法」、「文法学習法」、「リスニング学習法」、「読解学習法」についてそれぞれ3単元ずつ解説し、学生がこれらを普段の学習に取り入れることができるように、自習課題をつけた。自習課題を通じて学生が語学学習における訓練の大切さに気づき、学習を習慣化させると同時に、学ぶ力(集中力・持続力・計画力)を身につけることを狙っている。

#### (4) 教授用資料の充実

教授用資料にはReadingテキストの試訳やエクササイズの解答だけでなく、各単元での学習ポイントや、発展的なアクティビティーの例を掲載した。



## 支部報告

### 東日本支部

#### 1. 2010年度の総括

##### (1) 例会、スプリングセミナー、支部大会の開催

2009年12月18日(土)の支部結成以来、2010年度中に8回の例会を開きました。1回につき2件の研究発表ないしは実践報告というのが定番です。毎回の参加者はそれ程多くはありませんが、重ねて参加する会員がほとんどで、その議論を深化させることができました。

3月26日(金)には児童英語教育の松香洋子氏をお迎えしスプリングセミナーを、12月19日(日)には英語落語の大島希巳江氏をお迎えして第1回支部大会を開催しました。大会では関西支部の藤枝善之先生と倉田誠先生にもご発表いただき、参加者も50人を超える盛会となりました。

##### (2) 支部設立記念の出版企画について

設立当初から例会の度ごとに編集委員会を開催し、支部大会までの出版を目指しましたが、出版社との調整や原稿の手直しなどで2011年度中の出版に軌道修正致しました。

#### 2. 2011年度活動計画

基本的には2010年度を踏襲しながら、新たな課題にも取り組みます。

##### (1) 例会、スプリングセミナー、支部大会の開催

例会は原則として毎月の最終日曜日13:00から麗澤大学東京研究センターで行います。外部から講演者を迎え3月27日(日)にはスプリング



セミナーを、12月18日(日)には第2回支部大会を開催します。

##### (2) 研究活動

新たに研究分科会を立ち上げ、年間及び中・長期的な目標を設定し、自律的に活動します。「文法・語法」「映像リテラシー」「映画と文学」「データ共有化」「中学・高校」「教授法開発」などの分科会を計画しています。

##### (3) 組織運営について

引き続き支部長の新田晴彦先生のリーダーシップのもと、事務局および研究分科会の強化・定例開催を進める予定です。支部ホームページ、雑誌へのイベント記事掲載、ニュース「映画英語教育のすすめ」などを通して映画英語教育の普及に努め、2011年度中に150人会員を目指します。

(文責：渡邊 信)

## 関西支部

■5月8日(土)に第2回映画英文法ワークショップを京都外国語大学にて開催し、150人近くの学生・教員が集まりました。

●**研究発表:**「迂言的助動詞の使用に関する一考察」衛藤圭一(帝塚山大学)、「映画で学ぶ形態論 一語レベルの階層性と移動に着目して」石川弓子(大阪大学)、「Know your Right from your Left」三村仁彦(関西学院大学)、「映画を使った音声指導」野中泉(国際医療福祉大学)、「映画から読み解くone's wayの意味と機能」吉川裕介(佛教大学)。

●**シンポジウム:**「映画で学ぶ認知言語学」

野澤 元(京都外国語大学)、渋谷良方(京都外国語大学)、進藤三佳(京都大学)、中島千春(福岡女学院大学短期大学部)。

■第8回支部大会を9月25日(土)に近畿大学で開催し、約50人の参加者を得ました。

●**研究発表:**「会話速度とリスニングの関係」新田晴彦(専修大学)、「自由選択映画(DVD)レポート提出によるリスニング課外活動」成田修司(大阪経済大学)、「映画における高頻度基本コロケーションの性質」古樋直己(津山工業高等専門学校)、「映画を使った高校生向けの英語教材作成と実践報告」上田聖司(大阪府立八尾翠翔高等学校)、「映画英語から仮定法の時制とポライトネスを考える」大月敦子(信州大学)、「『長州ファイブ』における幕末留学生の“living machines”としての英語学習について」田中賢司(海技大学校)、「アイデンティティを探して:デビット・ゾペティ『いちげんさん』」高井若菜(大阪産業大学)。



「『シェーン・カム・バーク!&何処から来たのかおしえて』」河野弘美(帝塚山大学)、「呼称に見られる「建前」と「本音」の考察 一日本・アメリカ・イギリス映画のビジネス場面を分析して」北山 環(近畿大学)。

●**シンポジウム:** 映画『シェーン』徹底活用法

「『シェーン』で学ぶ一歩進んだ英文法」山本五郎(関西外国語大学)、「The Expression of American Identity Themes in the Film Shane through Non-Verbal Communication: Joey's Central Role」クレイグ・スミス(京都外国語大学)、「*Shane*を読み解く」福田京一(京都外国語大学)

■支部会員有志が執筆した『Step Up with Movie English』(金星堂)、『シェーン』(スクリーンプレイ)、『映画で学ぶ英語学』(くろしお出版)が出版されました。

(文責: 藤枝 善之)

## 支部報告

### 中部支部

#### (1) 研究発表会

2010年8月1日(日)に、ATEM中部支部主催による「映画英語教育学会2010年度東海支部大会」が開催されました。その内容は以下の通りです。

- ①「訳先渡し法と映画字幕利用」寶壺貴之(岐阜聖徳学園大学短期大学部)
- ②「T.カポータのフィクションとノンフィクション」井土康仁(藤田保健衛生大学)
- ③「How to Utilize Movie Segments as English Teaching Materials」網野千代美(中部学院大学)
- ④「授業に映画を使う人のためのPC徹底活用法」 亀山太一(岐阜工業高等専門学校)
- ⑤特別講演「映画に見るジェンダー」石川有香先生(名古屋工業大学)  
(会場:ネットワーク大学コンソーシアム岐阜駅サテライト教室)

#### (2) 映画英語フェスティバル

2010年12月18日(土)に、第13回中部映画英語フ

ェスティバル in 岐阜が開催され、一般の聴衆を含めた約50人が参加する大会となりました。

当日のプログラムは以下の通りです。

- ①映画鑑賞と映画クイズ:『スラムドッグ・ミリオネア』
- ②映画とクイズの解説 井土康仁(藤田保健衛生大学)
- ③映画音楽の調べ 演奏者:富岡怜子、近藤智沙
- ④講演:『タイタニック』の真実 亀山太一(岐阜工業高等専門学校)



(文責: 亀山 太一)

### 九州支部



映画英語教育学会、九州支部のホームページを開くと、まず「九州支部会員、大募集!!小・中・高等学校の先生

方、大学院生、大学の研究者、みんな集まれ!!!」という文言から始まる場所に当支部会の「魅力」は集約されているように思われます。

多数の出版物はもちろん、常に和気あいあいとした雰囲気の中、年に2回の運営委員会と、その後行われる懇親会は毎回盛り上がり、一方で、研究者に限られない多岐に渡る職業の方々から構成される会員の顔ぶれと、その仲の良さ(絆の深さ?)は、初めて懇親会などを訪れる方々からも「驚嘆」の声をいただく事は珍しくありません。九州支部の雰囲気はフレンドリーであるばかりでなく、映画などを利用した研究活動にも熱心な方々が多いというのも当支部の魅力でもあります。

さて、その支部大会ですが、昨年で第12回目の支部大会が九州大学・大橋キャンパスにて、10月30日(土)に開催され、大盛況のうちに幕を閉じました。

また、時期的には遡ることになりますが、去る8月8日

(日)に北海道医療大学、札幌サテライトキャンパスにて開催された全国大会にも計7名の支部会員が参加し、大会に少なからず貢献出来たのではないかと、考えております。

そして、ここ数年の間、毎回発表者を送り込んでいる韓国のSTEM大会でも工夫を凝らした発表が行われ、恐縮ではございますが、さまざまな国々から訪れている多くの英語教育関係者たちからも注目を浴びながら大会に一役買っているようです。

こうした和やかな一方でエネルギッシュな方々が多いのは、大学院時代、英文学や英語学が専門分野で英語教育を専攻していなかったものの、教職に就いて後、その必要に迫られ、いわゆる英語教育の分野に足を踏み入れたという先生方が比較的多く、頻繁な交流や活動によって各個人が刺激を受け、それが当支部における強力な原動力へと変化しているからかもしれません。動物の世界で様々な「血」が交じり合うと、より強力で強大な種が出来上がっていくように、映画英語教育学会における九州支部の「血」も様々な専門分野や異業種から構成され交配されることによって、これからも益々「繁栄」し、僭越ではございますが、映画英語教育学会のみならず世界の英語教育においても何かの利益をもたらすことを目指し活動していきたいと支部会委員一同、心より望んでおります。

(文責: 大木 正明)



## 委員会報告

「映画英語教育学会」規約改正(2010.8.8)に基づき委員会の組織が一部改正され、委員会の名称や委員が変わりました。下記の4委員会では、委員長を専務理事が担当し、委員会を各支部選出の委員で構成しています。

### 大会運営委員会

全国大会一覧: <http://www.atem.org/documents/convention.pdf>

大会運営委員会では、次期全国大会について話し合いました。これまでに以下の事項が決定しましたので、ご報告いたします。

**開催時期** 2011年8月下旬

**大会テーマ** これからの映画英語教育--アニメの可能性を探る--

**基調講演** 亀山太一(岐阜工業高等専門学校): 逆輸入アニメでわかる日本文化と英語文化(仮題)

**シンポジウム** 映画を活用した指導—語彙・文法・音声(Listening & Speaking)—

大会運営委員会委員長 佐藤 弘明(専修大学)

委員 塚越 博史(北海道医療大学)

亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

### 紀要委員会

紀要委員会: <http://www.atem.org/cn55/index.html>

今回より紙面を一新すると共に、従来の作業工程を“仕分け”し、迅速な紀要発行を目指しております。中身に関しても、会長による巻頭言を新設し、全国大会の基調講演を委嘱論文として掲載することにした他、公平で厳正なる審査を徹底することで、今まで以上に充実したものになるよう委員一同努めています。

また、今回初めて姉妹学会のSTEM会員から投稿がありましたが、今後もこうした学術的交流が深まってゆけばよいと考えております。

ただ残念なことに、投稿規程を遵守していない投稿論文がまだ目立ちます。APAスタイルに不慣れな方のためにポイントをまとめたガイドラインおよび投稿用カバーレター兼テンプレートを用意しましたので、第17号に投稿される方は必ず本学会HPを確認してから投稿するようにして下さい。

紀要委員会委員長 角山照彦(広島国際大学)

委員 塚越博史(北海道医療大学)

高瀬文広(福岡医療短期大学)

## 委員会報告

### 広報委員会

当委員会はこれまでの個々の活動を一括する委員会として、本名称で新設されました。

#### ■委員会の基本方針

- 当学会で発表する研究や実践報告などの情報を広報する。
- 「知的情報」や「ニュー・アイデア」を共有するホームページを運営する。
- ソーシャル・ネット・コミュニケーションを促進する。(メールマガジン)

#### ■活動内容

- ①「Newsletter」を定期的に刊行。

各会員に郵送します。電子版のBACK NUMBERはホームページでご覧になれます。

広報委員会: <http://www.atem.org/cn69/index.html>

- ②「新着情報」をホームページで公示。

「紀要」論文募集・全国大会のお知らせ・支部情報・新作映画の紹介などを公示します。

- ③公式サイト(<http://www.atem.org/>)の管理と編集・更新

メニュー・バーの「大会」「紀要」「国際交流」「広報」から各委員会のサイトが開きます。

関連リンクは、ATEM各支部、スクリーンプレイ出版、田崎清忠公式ウェブサイト、会員個人のWEBサイトが双方向リンクしています。

広報委員会委員長 塚田 三千代(映画アナリスト)

委員: 松田 愛子(翻訳家)

渡邊 信(麗澤大学)

亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

大木 正明(大分工業高等専門学校)

### 国際交流委員会

これまでの国際交流委員会を調整し、今後は更に積極的に海外交流をする方向に動いています。11月6日の理事会の決議事項を受けて、ATEMの傘下にある4支部から1名ずつの新国際交流委員を選出していただきました。

委員会の業務としてはこれまで通り、古くからの姉妹団体である「映像英語教育学会」(Society for Teaching English through Media: 通称STEM)との学術および文化交流を発展させていくことが第一となります。各国際交流委員には、これからも所属支部からSTEMに参加する会員諸氏を募集いただきたく存じます。ちなみに、来年のSTEM全国大会は、4月23日です。

また今後はSTEM以外にも、海外の学術団体との交流を広げていくという方向の案が出ており、国際交流委員のみならず、広くATEM会員諸氏のお知恵をいただくことになろうかと存じます。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

国際交流委員会委員長 倉田 誠(京都外国語大学)

委員: 篠原 一英(久留米筑水高等学校)

井村 誠(大阪工業大学)

網野 千代美(中部学院大学)

大月 敦子(信州大学)

## 会計報告

第15期 映画英語教育学会 2009年 決算報告書(2010予算案)

2009年12月31日  
(2009.1.1~2009.12.31)

収入の部				支出の部					
		2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算		2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算	
前年度繰越		1,912,228	1,912,228	1,192,236	大会開催費	大会開催総費用・専修大学	500,000	321,475	500,000
会員年会費	09年度分@5000* 309	1,600,000	1,545,000	1,500,000	紀要発行費	紀要14号作成・印刷費・送料	500,000	907,330	700,000
賛助会費	09年度分@10,000* 6	90,000	60,000	90,000	ニューズレター発行費	ニューズレター印刷費・送料	200,000	185,840	200,000
大会参加費	@1,000* 59		59,000		ホームページ維持費	プロバイダー基本料金他	100,000	35,910	40,000
	@2,000* 38	150,000	76,000	150,000	研究活動費	支部活動助成	150,000	150,000	200,000
大会懇親会費	@4,000* 36	160,000	144,000	150,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	70,000	53,384	70,000
書籍売上	紀要・ハンドブック・教育論	120,000	63,000	100,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	100,000	65,451	50,000
受取利息			925	1,000	旅費交通費		10,000	3,210	10,000
郵送料収入			0	0	交際費		20,000	1,050	20,000
書籍郵送代		67,772	2,550	6,764	支部助成金	東海支部フェスティバル助成	300,000	150,000	300,000
雑収入			10,500		会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助他	150,000	167,791	200,000
					租税公課		0	0	0
					国際交流費	STEM他運営費用	150,000	100,000	100,000
					雑費	振込料他	50,000	62,210	50,000
					※東日本支部結成経費			477,316	
						(予備費)	1,800,000		750,000
					小計		4,100,000	2,680,967	3,190,000
						みずほ銀行		590,690	
						郵便振替口座		485,286	
						小口現金		116,260	
						翌年度繰越金			1,192,236
合計		4,100,000	3,873,203	3,190,000	合計		4,100,000	3,873,203	3,190,000

2010年6月吉日 上記の通り相違ありません  
会計監査 泉 日出人  
大月 敦子



## 訃報

鈴木 博(映画英語教育学会 初代会長/東京大学名誉教授)2010.11.2 逝去。  
当学会会員が編纂した検定教科書の顧問を務めてご尽力いただきました。  
・2003.4 文部科学省 検定高等学校外国語科用(220/スクリ/オ1019)  
SCREENPLAY Oral Communication I 顧問。  
・2004.4 文部科学省 検定高等学校外国語科用(220/スクリ/オ11007)  
SCREENPLAY Oral Communication I 顧問。

# 新作映画紹介

## ソーシャル・ネットワーク

原題: *The Social Network*

第23回東京国際映画祭オープニング作品 (米)第83回アカデミー賞8部門にノミネート  
 【監督】デヴィッド・フィンチャー  
 【脚本】アーロン・ソーキン  
 【出演】ジェシー・アイゼンバーグ、アンドリュー・ガーフィールド、ジャスティン・ティンバーレイク、ルーニー・マーラ  
 【製作】2010年 アメリカ 【配給】(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント  
 【原作】*The Accidental Billionaires* by Ben Mezrich  
 【訳書】ベン・メズリック著『facebook 世界最大のSNSでビル・ゲイツに迫る男』(青志社)

- ハーバードの天才大学生が立ち上げた「ザ・フェイスブック」は、数年で世界最大のSNSに成長する。プログラマーの独創性とは何かが問われる。友人との亀裂や葛藤を、2005年時代の青春ドラマに、鬼才D・フィンチャーが創り上げている。アドリブのようなリズムと速いテンポの会話が飛び交う。ITプログラム用語、学生企業家のアイデアと盗用、学生の嘆願に返えされた自由気風で冷徹な学長の回答など、このシーンの英語セリフは聞き落とせない聞きどころである。名門大学ヨットレース、学年や同窓系列によって差別化された学生寮、出会いサイトの作成に熱中して競い合うプログラマー志望者の在りのままの姿が映像でよく描かれている。マークは部屋の片隅にパソコンを見つけると、“Do you think anybody would mind if I stayed and used the computer for a minute?”といて、すぐさまパソコンのキーをたたくのだった。(m.t.)



© 2010 Columbia Tristar Marketing Group, Inc. All rights reserved.  
 ■Trailer #1: <http://www.imdb.com/video/imdb/vi4152690201/>

## レオニー

原題: *Leonie*

第23回東京国際映画祭招待作品 日米合作  
 【製作・脚本・監督】松井久子(『ユキエ』、『折り梅』)  
 【出演】エミリー・モーティマー、中村獅童、原田美枝子、竹下景子、クリスティーナ・ヘンドリックス、メアリー・ケイ・ブレイス、勅使河原三郎、吉行和子  
 【配給】角川映画 【使用言語】日本語・英語  
 【原案】ドウス昌代著『イサム・ノグチ〜宿命の越境者』(講談社刊)

- 地球の大地や自然と交わり、庭園彫刻で世界的に著名なイサム・ノグチ。彼の母レオニーは詩人ヨネ・野口と出会い、イサムが生まれた。帰国したヨネを頼って、息子をつれて来日して英語家庭教師をしながらイサムを育てる。映画はイサムが彫刻家としてニューヨークで初個展を開くまでのレオニーの波乱万丈な苦闘を描く。20世紀初頭のフィラデルフィア(1901年)～ニューヨーク～横浜(1907年)・鎌倉～ニューヨーク(1923年)～メリーランド(1933年)へと場面が移りゆき、国境を越えた芸術DNAは息子イサム・ノグチに伝わっていった。情緒ゆかしい日本を撮った映像と説得力のある英語セリフがすばらしい。(m.t.)



© 2010 Paramount Pictures. All rights reserved.  
 ■<http://www.leoniethemovie.com/>

“Don't bore me by being ordinary.”「平凡な人間なんて、つまらないわ」と学生時代に言っていたレオニーは、母となり、イサムに誇らしげにいう。“There're no boundaries for an artist. No border.”「芸術家には限界がなく、国境も存在しない」 “Through art, you can speak all languages and live a magnificent life anywhere.”「芸術家はあらゆる言語を介して、どこでも素晴らしい人生を歩むことができる」。

### ●ATEM第17回全国大会 発表者募集

詳細はATEMホームページ(<http://www.atem.org/>)をご覧ください。

### ●紀要第17号原稿募集

詳細はATEMホームページ(<http://www.atem.org/cn55/index.html>)をご覧ください。

### ●映画英語教育学会 入会申込

映画英語教育学会(ATEM)事務局へ、申込用紙に必要事項を記入して、FAX(03-3360-6364)、またはE-mail ([office@atem.org](mailto:office@atem.org))でお申込み下さい。申込用紙はATEMホームページより、PDFでダウンロードできます。